委員会報告

医療安全管理委員会

委員構成　委員長　１名（病院長）、副委員長　２名
看護部長　、事務長　、各部署長　ほか

設置目的

１）医療安全管理委員会の開催
２）報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
３）医療安全に関する職員研修・指導
４）その他、医療安全に関する事項の協議

2019年度の活動報告

委員会では毎月、委員会の開催日前日までに報告されたインシデント事例１か月分の中から重要事例を採り上げ、部署内での対応・対策を確認、協議し、対策が不十分であれば、改めてその改善を依頼し、結果を翌月の委員会にて確認した。また、複数部署にかかわる事例では、対応・対策について協議・調整した。

2019年度のインシデント報告数は233件であった。年次推移を図１に示す。

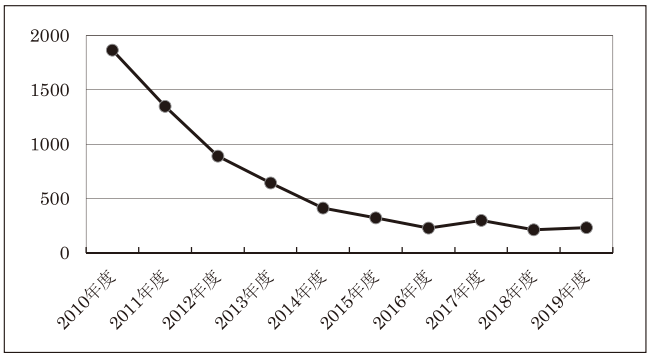


図１　インシデント報告件数の年次推移

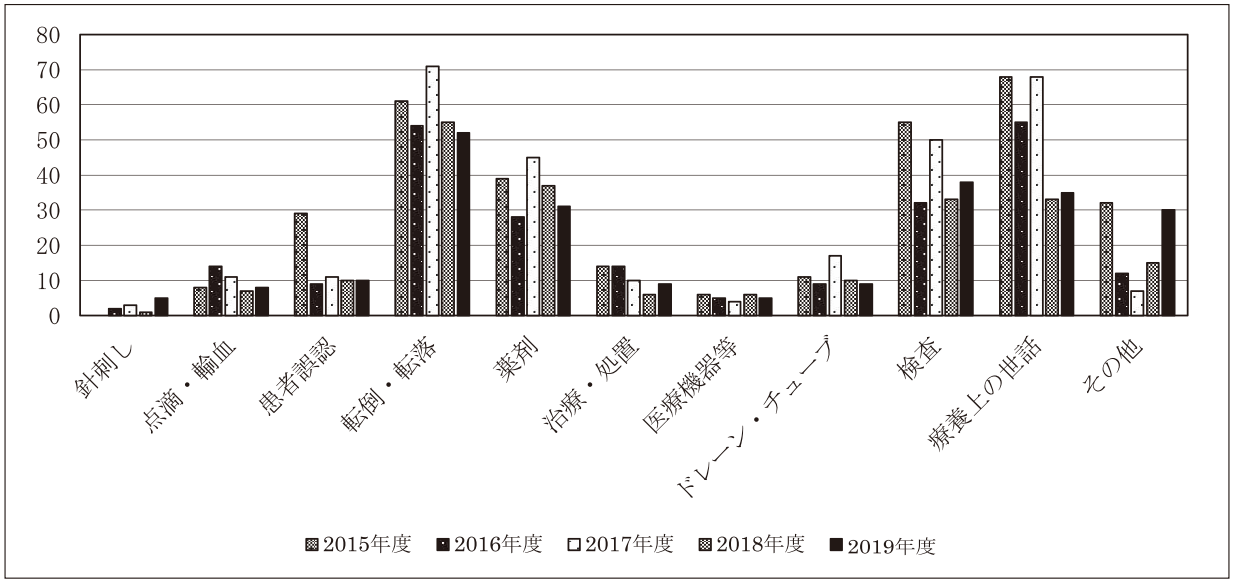


図２　事故種類別報告数の年次推移

部署別報告数（発生・責任部署ではない）の年次推移

部署＼年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
医局	41	11	8	8	1	1	1	6	3	3
外来	113	83	48	47	30	20	16	14	6	9
２階病棟	550	500	223	129	109	96	80	125	78	76
３階病棟	210	109	73	63	59	70	45	48	37	36
手術室	233	146	46	40	37	11	7	8	5	16
薬剤科	68	40	71	53	26	7	6	4	2	1
リハ科	224	235	238	148	37	21	20	12	11	19
放射線科	57	37	33	26	15	15	15	7	14	11
検査科	65	52	39	24	29	23	10	35	23	28
栄養科	154	49	49	28	28	27	15	25	15	25
医療事務科	116	72	35	34	23	11	3	11	6	4
地域連携室	22	11	11	16	8	3	0	2	0	1
情報管理室	0	0	16	22	9	16	7	2	8	3
訪問看護	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1

2020年度の目標

2019年度の目標として「各部署の委員がインシデント報告を頻繁に閲覧し、自部署のみならず他部署の報告にも目を通す機会を増やすようにすること」を掲げた。2020年度も同じ目標を掲げる。

ま　と　め

事故種類別報告数は各項目とも横這い、または減少傾向だが、「転倒・転落」では前年度、骨折事例が続いたため、対策チームが発足し、転倒・転落リスクのスコアリングシステムの見直し、センサー機器の適応拡大・充実、ベッドやトイレ周辺の設備・備品の設置状況の改善等、環境整備が行われ、さらに転倒・転落リスクに関する情報の共有を毎朝の申し送り時に行うなどの対策が図られている。

感染対策委員会

委員構成　委員長　１名（病院長）、副委員長　２名
看護部長、事務長、各部署長　ほか

設 置 目 的

１）院内感染対策委員会の開催
２）院内感染状況の把握と対策の検討、職員への周知
３）院内感染の研修・教育
４）感染発生件数の統計処理
５）感染性医療廃棄物の処理、管理

2019年度の活動報告

１）朝礼での申し送り時、入院患者の感染報告・流行期感染症について全職員に周知し感染に対する意識を高めた。
２）厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）に参加した。
３）職員研修会
・2019年５月31日　杏林製薬「気を付けようあなたが防ぐ院内感染」
・2019年11月29日　３部署（看護部・検査科・リハビリ）より感染予防策について発表。
・新入職員対象に標準予防策、職業感染予防策、針刺し事故について研修を実施した。
４）職員感染予防対策
・インフルエンザ予防接種、Ｂ型肝炎抗体検査及びワクチン接種、麻疹・風疹抗体検査及びワクチン接種
５）伝達報告
・感染レポート報告（細菌感受性）臨床検査科
・抗菌薬使用状況報告　薬剤科
・針刺し事故発生　４件（外来、２階病棟、手術室）
・院内ラウンド報告：院内感染発生有無・抗菌薬使用状況・標準予防策指導
・地域連携感染対策合同カンファレンス参加（アルメイダ病院）

2020年度の目標

新型コロナウイルスの感染拡大対策
１）標準予防策を徹底し感染を制圧する。
　手指消毒の徹底、咳エチケット、マスク着用の厳守
２）感染発生に適切かつ迅速に対応できる体制を構築し、感染防止に努める。

ま　と　め

院内での年間の感染発生状況は、インフルエンザ６件、感染性胃腸炎２件であった。３月より新型コロナウイルス感染対策として、発熱外来の設置、面会制限、徹底した手洗いとマスクの着用に取り組んでいる。 今後も、標準予防策の徹底を行い院内感染防止に努める。

褥瘡・栄養対策委員会

委員構成　委員長　１名、副委員長　１名、委員　９名

設 置 目 的

褥瘡対策を協議、検討し、その効率的な推進を図る。

2019年度の活動報告

褥瘡発生件数：29名（当院発生17名（うちMDRPU８名）　持ち込み発生12名）
推定発症率　0.6%　（前年度：1.09%）　全国平均1.7%（2018年度）
有病率　1.06%
治癒率　20.6%　（前年度0.8%）
発生部位：仙骨部　４名、臀部　３名、背部　１名、腸骨部　１名
MDRPU：下腿　２名、耳後部・鼻翼部・足関節・足底・爪の付け根　各1名
発生時の深さ：DESIGN-R分類　ｄ１～ｄ２
発生要因：不十分な体圧管理
マット交換の遅れ
骨突出
低栄養（軽度～中程度）
医療機器装着時、固定時の圧迫
MDRPU発生医療機器：フットポンプ、アンシルク、NGチューブ、酸素カニューラ

2020年度の目標

１）各部署での委員会活動の充実
２）MDRPU予防対策マニュアルの見直し

ま　と　め

今年度の推定褥瘡発生率は0.6%と前年度より大幅に改善した。特に大腿骨頸部骨折患者の褥瘡が減少しており、早期の手術・離床も要因の一つと考えられる。仙骨部の褥瘡は毎年一定数の発生がみられ、今年度も４件と部位別では最多であった。その原因として除圧が十分にできていないことが挙げられた。高齢者が多く30°側臥位の保持のためにはアセスメントに基づいたポジショニングが必要で、スタッフのポジショニング技術向上に向けた取り組みを次年度も継続していきたい。今年度よりMDRPUの集計も開始し、深度は浅いが褥瘡発生数の半数をMDRPUが占めた。６症例が入院中に治癒、２症例も退院後処置は必要としなかったが、発生数が多いため、次年度は既存マニュアルの見直し、スタッフ教育などを通して発生率の改善を目指したい。褥瘡予防には多職種の連携が必要であり、基準・マニュアル作成に取り組んだ。次年度はそれを基に各部署での委員会活動を充実させていきたいと考えている。

教育委員会

委員構成　委員長　1名、副委員長　1名、委員　21名

設置目的

医療安全管理教育、感染対策教育、倫理教育、および職員の質向上のための教育活動を行うことを目的とする。

2019年度の活動報告

月　日	研　修　会　テ　ー　マ	
4月19日	医療ガス委員会	医療ガスの取り扱い方 防災の基礎知識・対応
5月31日	感染対策委員会	標準予防策
6月22日	教育委員会	第17回　院内研究発表会
7月19日	医療安全管理委員会	医療安全研修
8月30日	個人情報委員会 救急委員会	院内勉強会
9月	労働安全衛生委員会 施設管理委員会	働き方改革研修会 防災マニュアル研修会
10月	医療安全管理委員会	医療安全・医療機器管理研修
11月	感染対策委員会	院内感染予防

2020年度の目標

1）院内研究発表会の開催・運営を行い、全職員の知識・技術の向上を図る。
2）定期的な研修会を実施し、全職員の知識・技術の向上を図る。

ま　と　め

今年度は院内研究発表会を計画通り6月に開催することができた。今回は他医療機関・施設への審査員の依頼を行い5名の外部審査員に来ていただくこととなった。各部署・チームから10演題の発表があり、活発な質疑応答がみられ、大変有意義な院内研究発表会であった。また、課題となっていた中途入職職員の研修会を11月に開催することができた。その他研修については、感染対策・医療安全管理の研修会をインフルエンザ・ノロウイルス流行前に開催することができた。しかし、倫理研修会については感染症の終息する3月を予定していたが、コロナウイルスの流行により開催中止となった。

糖尿病相談会

委員構成　委員長　１名（病院長）、管理栄養士　１名
薬剤師　１名、看護師　３名、臨床検査技師　２名
理学療法士　２名、作業療法士　１名

設 置 目 的

糖尿病の治療にあたり、患者自身及びその家族において本疾患の病態を深く理解し、基本的な知識の習得をして積極的に自己管理ができるようにする。

2019年度の活動報告

１）第49回糖尿病相談会
テーマ：「試食　ケンタッキーフライドチキン VS おにぎり」
開催日：2019年７月27日（土）　12：00～13：30
場　所：３階会議室　　参加人数：６名
内　容：普段敬遠されている揚げ物の代表格であるフライドチキンと和食のおにぎり＝肉（たんぱく質）VS めし（炭水化物）の対決。２班に分かれて試食し血糖値の推移を確認し、食事療法について理解をしてもらう。

２）第50回糖尿病相談会
テーマ：「運動療法」
開催日：2019年11月16（土）　13：00～14：00
場　所：３階会議室　　参加人数：４名
内　容：糖尿病治療の１つである運動療法。自宅でできる運動、日常生活に運動をプラスする方法を紹介し、運動療法を理解してもらう。

３）第51回糖尿病相談会
テーマ：糖尿病の食事療法について
開催予定日2020年３月28日（土）　13：00～
＊新型コロナウイルス感染拡大のため中止。

2020年度の目標

１）糖尿病に対する基礎知識の理解及びその普及
２）糖尿病相談会の開催（年間３回）

ま　と　め

2019年度は年２回の開催となった。内容は糖尿病治療の基本である ①食事療法 ②運動療法 を取り上げた。来年度はより充実した参加型の研修会を企画していきたい。

ＶＴＥ（静脈血栓塞栓症）対策チーム

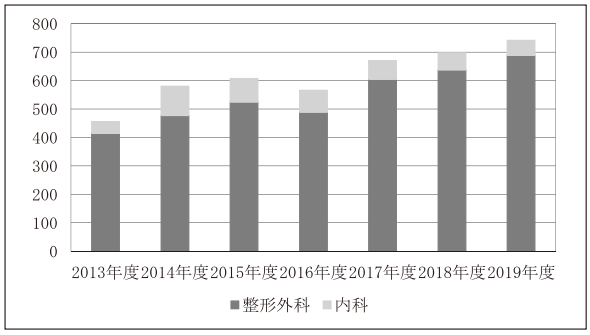
委員構成　医師　１名、看護部長
各病棟看護師・リハビリテーションスタッフ　数名ずつ
臨床検査技師　１名

設置目的

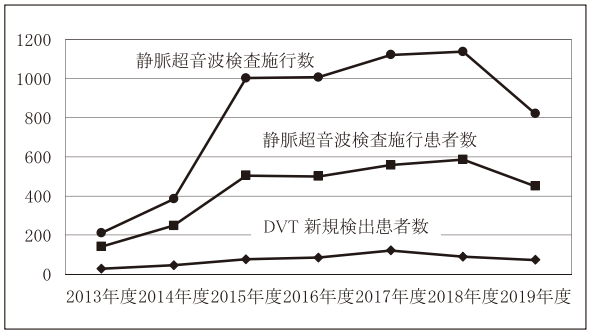
2012年10月、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、臨床検査技師からなる「VTE対策チーム」を組織し、以来、ハイリスクの入院患者を対象に毎週、回診を行いながらVTE対策に取り組んでいる。

2019年度の活動報告

回診対象患者は741名（整形外科 689名、内科 52名）、静脈超音波検査施行患者は450名、同検査施行数は821件、深部静脈血栓（DVT）新規検出患者は73名（回診対象患者の9.9%）であった。肺血栓塞栓症の発症例はなかった。回診対象患者数および静脈超音波検査施行患者数、同検査施行数、DVT新規検出患者数の年次推移をそれぞれ以下に示す。



回診対象患者数



静脈超音波検査施行患者数、同検査施行数、
DVT新規検出患者数の年次推移

2020年度の目標

１）入院時のリスク評価を正しく行う。
２）有効かつ無駄のない予防策を確立する。
３）予防策の変更・中止の判断を遅滞なく行う。

ま と め

対象患者は増加したが「有効かつ無駄のない予防策の確立」の一環で、2019年１月から人工関節置換術後５日目の下肢静脈超音波検査を中止した。検査患者数、検査施行数の減少に伴い、新規のDVT検出患者数も減少したが、症候性VTEの発症には繋がっていない。しかし、入院時のリスク評価や患者管理を含めた総合的な予防対策には課題を残している。チーム以外のスタッフの理解・協力がさらに必要である。

2019年４月15日『明野タイムズ』
旬の彩りおすすめヘルシークッキング

旬の彩り おすすめ*ヘルシークッキング

【資料提供】明野中央病院　栄養科 管理栄養士 中村 佳子

簡単 ちょっと 豪華に!!

ひき肉と山芋(長芋)のフライパン焼き

〈材　料〉2人分

- 豚ミンチ……100g
- 山芋(長芋)……80g
- 玉葱……30g
- 人参……20g
- えのき……20g
- 味噌……大さじ1/2
- 砂糖……小さじ1
- みりん……小さじ1/3
- 濃口醤油……小さじ1/3
- 片栗粉……小さじ2
- サラダ油

〈作り方〉

①玉葱、人参、えのき茸はみじん切りにする。
②山芋(長芋)は皮をむき適当な輪切りにし、ビニール袋に入れ木製のすりこ木等で袋の外からたたく。(小さくなるまで)
③②に豚ミンチ、①を入れ調味料、片栗粉(つなぎ)をいれてよくもみつぶし、成形する。
④フライパンのサラダ油を熱し③を入れて弱火で焼く。
＊調味料が入っているので焦げやすく、長芋(山芋)のとろみで型崩れしやすいので、フライパンに入れた後はしばらく弱火で、片面が固まるまで裏返さない。

【ポイント】
■生でも美味しい山芋、加熱すると大きな変化がでてきます。
■主成分であるでんぷんに熱が加わると食感がかわってきます。サクサクからコリコリ、ホクホクと食感が変わると同時にうま味もプラスされます。
■消化酵素のアミラーゼを多く含むため消化を助けます。
■山芋(山で自生(自然薯)はねばりが強く、長芋(中国原産で日本で栽培)は山芋に比べて粘りは弱いが、水分は多い。

明野中央病院 明野こつ・ロコ講座
～骨粗しょう・ロコモ教室～

明野中央病院(中村英次郎理事長)は5月17日明野中央病院3階会議室で第1回明野こつ・ロコ講座を行った。

第3期となる～骨粗しょう・ロコモ教室～明野こつ・ロコ講座は全3回コースで開催され、定員いっぱいの40名が参加している。内容は骨粗しょう症やロコモなど運動器の病気の話、ロコモ予防体操や骨と筋肉に良い料理となっており、当日は中村英次郎理事長による講話とロコチェック、スクワットや片脚立位などのロコモ体操や骨を強くするために必要なカルシウムふりかけを実際作って試食してもらった。参加したみなさんは「先生のお話がとてもわかりやすかったです。健康寿命を延ばせるよう、今日から体操を続けていこうと思いました。ふりかけも早速作ってみようと思います」と内容に満足した様子だった。

2019年６月15日『明野タイムズ』　明野こつロコ講座

損傷した関節軟骨や靭帯など

自分の血液で再生医療

県内では明野中央病院が導入

自然治癒力で修復促す

PRP療法 治療の流れ

患者の血液から抽出した血小板を痛みがある患部に注入する「PRP（多血小板血漿）療法」。本来備わっている自然治癒力や、組織の修復・再生能力を引き出し、傷んだ関節軟骨や靭帯などの回復を目指す再生医療だ。県内では明野中央病院（大分市）が4月から治療を開始。PRPをさらに濃縮し、修復能力を高める「APS療法」と併せて、治療の選択肢を増やしている。

人の血液に含まれる血小板には止血作用に加え、細胞の増殖を促す成長因子を放出し、損傷した組織を修復する働きがある。PRP療法では、患者から血液を約60ccを採取した上で、専用キットを使って遠心分離機で血小板を凝縮、活性化させた後、約3ccの血漿を患部に注射する。

同病院によると、対象となる疾患は▽テニス肘▽アキレス腱炎▽靭帯損傷▽足底腱膜炎▽筋挫傷▽足底筋膜炎など。米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手らが肘の治療に取り入れており、自分の血液を使うためアレルギー反応などの副作用のリスクを抑えられ、体への負担が少ないことも特長という。

一方で、APS療法は変形性膝関節症の新たな治療法として注目され、PRPからさらに抗炎症成分や成長因子を高濃度で抽出した溶液（APS）を膝の関節に注射。軟骨の破壊を引き起こすタンパク質の働きに歯止めをかけ、関節内部の破壊と再生のバランスを改善し、痛みを和らげ、軟骨の変性と破壊を抑える。

痛み止めの服用、ヒアルロン酸注射といった保存療法と、手術との中間に位置する「第3の治療法」だが、PRP療法、APS療法とも健康保険の適用外のため、自由診療となる。ただし、関節内部の破壊が進んで症状が重い場合、組織を修復する効果が見込めないという。

同病院の藤川陽毅こつ・かんせつ・リウマチセンター長は「年を重ねてもアクティブに活動したいと思う人は多い。患者さんが持つ自然治癒力を生かした治療法だが、ある程度条件もある。選択肢の一つと考えてほしい」と話す。

治療費などについて、同病院は「個別に問い合わせてほしい」としている。（日野治朗）

PRP療法・APS療法に取り組む明野中央病院こつ・かんせつ・リウマチセンター長の藤川陽毅医師

PRP療法、APS療法で使用する遠心分離機（左）と無菌状態で作業するためのクリーンベンチ＝大分市の明野中央病院

変形性膝関節症

クッションの役割をする膝の軟骨がすり減ることで発症する。原因は関節軟骨の老化が多く、肥満や遺伝子も関与する。症状が進行すると膝の骨同士が直接ぶつかるため、痛みを伴い、歩くのが困難になることもある。膝への荷重のバランスが悪く、日本人に多い「O脚」の人はなりやすい。

2019年７月１日『大分合同新聞』　ＰＲＰ記事

旬の彩り　おすすめ*ヘルシークッキング

【資料提供】明野中央病院　栄養科 管理栄養士 中村 佳子

簡単 ちょっと豪華に!!
調理時間15～20分

魚のピザ

〈材　料〉2人分

- 魚……2切れ
- おろしニンニク……少々
- 塩・こしょう……少々
- 薄力粉……小さじ1
- ピザソース……20g
- 玉葱……30g
- ピーマン……10g
- 酒
- とろけるチーズ……20g
- 天板用油……少々
- トマト
- インゲン

〈作り方〉

①魚は、おろしニンニク、塩・こしょうで下味をつける。
（魚が大きい場合は一口大のそぎ切りにする。）
②玉葱は薄いくし切りにする。
③ピーマンは薄い輪切りにする。
④天板にアルミホイルを敷き、薄く油をひく。
⑤①の魚に薄く小麦粉をふり、ピザソース、玉葱、ピーマンとろけるチーズをかける。
⑥オーブントースターでチーズがこんがり色がつくまで焼く。
（5～7分程度）

【ポイント】
■魚はアジ、サバ、赤魚等でもよい。（鶏肉のそぎ切りでも可能）
■魚や鶏肉は薄いそぎ切りにするのがポイント。
■フライパンにクッキングシートを敷いても焼けます。

2019年10月15日『明野タイムズ』
旬の彩りおすすめヘルシークッキング

第4期　第1回 ～骨粗しょう・ロコモ教室～ 明野こつ・ロコ講座

明野中央病院は、10月18日に第4期生となる～骨粗しょう・ロコモ教室～明野こつ・ロコ講座を開催した。

講座は、9月に改装され広くなった1階リハビリ室を使って行われ、中村英次郎理事長より「ロコモ」についての説明があり、「これからの講座を受けて、元気に動ける時間を延ばせるよう頑張ってください」と参加者を激励した。続いて看護部による「ロコチェック」では、広いリハビリ室を使って5つの健康チェックをスタンプラリーのように楽しみながら行い、今の自分がどれぐらい動けるのかをチェックした。その結果を踏まえて、動ける体を維持できるよう、リハビリテーション科から効果的な「ロコモ体操」を行った。体操を行うテンポがわかりやすいようにと、曲にあわせて体操を行い、参加者の方も軽い運動を行う心地よさを実感していた。最後は栄養科より「食事でロコモ予防」として『簡単カルシウムふりかけ』を実際に作り、皆さんで試食した。体操や料理も学べるこの講座は好評で、参加した方は「今日習った料理をすぐに作ってみます」と話していた。

医療法人社団唱和会
明野中央病院
電話 (097)558-3211
FAX (097)558-3709
大分市明野東2丁目7番33号

2019年11月15日　『明野タイムズ』
第４期明野こつ・ロコ講座

旬の彩り　おすすめ*ヘルシークッキング

【資料提供】明野中央病院　栄養科 管理栄養士 中村 佳子

簡単 ちょっと豪華に!!
調理時間20～30分

鶏もも肉と大豆のトマト煮

〈材　料〉1人分

- 鶏もも肉……80g
- 塩・こしょう……少量
- 小麦粉……適量
- サラダ油……適量
- 玉葱……50g
- 大豆(水煮)……30g
- ホールトマト缶……10g
- 水……50cc
- ブロッコリー……30g
- しめじ……30g
- サラダ油……適量
- 塩・こしょう……少量
- しょうゆ……少量

〈作り方〉

①鶏もも肉は一口大に切り塩・こしょうをし小麦粉を薄くまぶす。
②玉葱はくし形切りにする。
③フライパンにサラダ油を引き①の鶏肉を入れて、時々裏返しながらきつね色になるまで焼く。
④③に玉葱をいれて火が通るまで炒める。
⑤④にホールトマト缶、水、大豆(水煮)を入れ4～5分煮る。
⑥塩・こしょう、しょうゆで味を整える。
⑦付け合せは好みでつける。

【ポイント】
■鶏もも肉の代わりに魚のそぎ切りを使用しても美味しくいただけます。
■肉や魚(動物性蛋白質)に大豆(植物性蛋白質)　が加わることによりバランスがよくなる。
■トマトホール缶は100gあたり26kcalと低カロリー。
■トマトホール缶のリコピン含有量は生のトマトの3倍。リコピンは抗酸化作用が高い。
■リコピンは油と一緒に摂取すると吸収率がアップする。

2020年３月15日『明野タイムズ』
旬の彩りおすすめヘルシークッキング

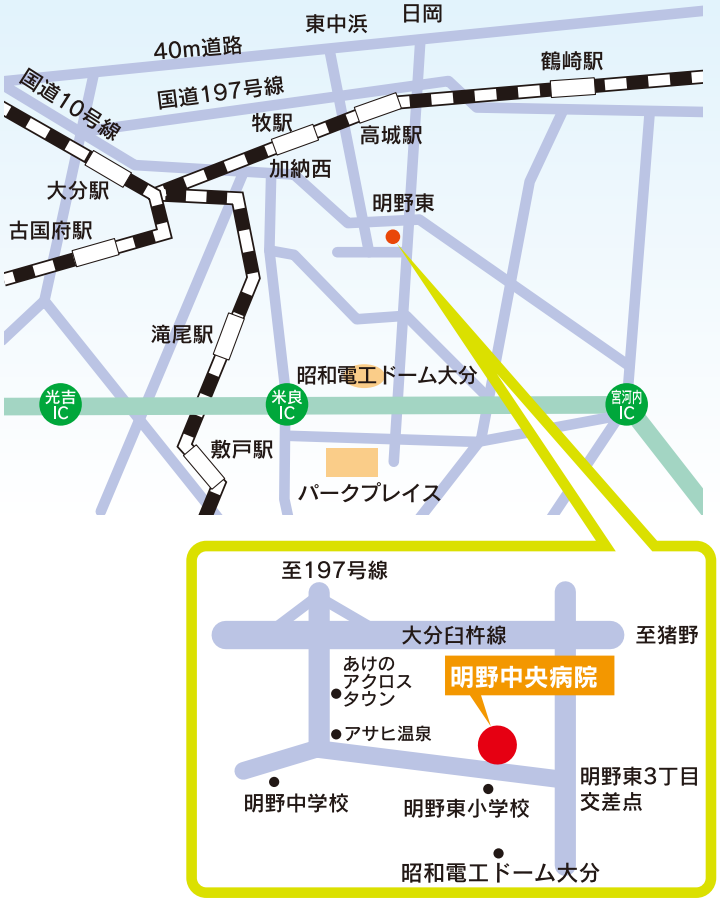
医療法人社団唱和会　明野中央病院

2019年度　事業報告書

2020年９月１日発行

発　行　医療法人社団唱和会 明野中央病院
〒870-0161
大分県大分市明野東２丁目７番33号
TEL（097）５５８－３２１１
FAX（097）５５８－３７０９

印　刷　株式会社 電子印刷センター
〒874-0011
大分県別府市大字内竈1393
TEL（0977）６６－５３６５
FAX（0977）６６－５３８３



医療法人社団 唱和会

明野中央病院

TEL 097-558-3211
FAX 097-558-3709

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号
E-mail:akenohp@fat.coara.or.jp http://www.akenohp.jp/